

前期日程

令和7年度入学者選抜学力検査問題

小 論 文 (本文3ページ)

地域デザイン科学部

コミュニティデザイン学科

12時30分—14時00分

〔注意〕

1. 検査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入しなさい。
3. この問題冊子には2問題ある。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は申し出なさい。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入しなさい。所定の欄以外に記入したものは無効である。

第1問 以下の問いに答えよ。

次ページの表は、「あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか」という質問に「思っている」と答えた者に対して、さらに「何か社会のために役立ちたいと思っているのはどのようなことですか」(表の項目の中から複数回答可)と質問したものである。この表からはどのようなことが読み取れるか。その理由や社会背景などを踏まえて考察を加えよ。(400字以内、句読点・改行含む)

表 社会への貢献内容

項 目	単 位	平成 10年 12月	平成 12年 12月	平成 14年 12月	平成 16年 1月	平成 18年 2月	平成 20年 2月	平成 22年 1月	平成 24年 1月	平成 26年 1月	平成 28年 2月	平成 30年 2月	令和 2年 1月
該当者数	人	4,231	4,206	4,002	4,070	3,100	3,802	4,049	4,082	4,042	3,820	3,633	3,420
社会福祉に関する活動 (高齢者・障害者・子どもに対する身の回りの世話, 介護, 食事の提供, 保育など)(注)	%	37.5	33.9	33.4	32.1	36.3	35.6	36.4	35.8	37.6	35.1	39.3	36.5
自然・環境保護に関する活動(環境美化, リサイクル活動, 牛乳パックの回収など)	%	36.0	36.3	32.3	32.0	32.9	41.2	37.4	34.2	32.4	31.6	28.8	31.8
町内会などの地域活動 (お祝い事や不幸などの手伝い, 町内会や自治会などの役員, 防犯や防火活動など)	%	34.4	36.8	36.2	37.9	35.0	35.6	36.3	34.0	34.1	32.9	31.4	29.1
自主防災活動や災害援助活動	%	14.8	15.9	16.6	17.1	20.4	22.3	21.5	27.3	26.9	25.4	25.0	26.3
自分の職業を通して	%	20.3	21.5	21.7	20.9	20.8	25.6	22.8	25.0	26.7	25.0	25.4	26.1
家事や子どもの養育を通して	%	16.2	18.6	19.1	18.8	16.5	22.7	22.4	20.1	22.0	20.7	22.0	20.6
体育・スポーツ・文化に関する活動(スポーツ・レクリエーション指導, 祭り, 学校でのクラブ活動における指導など)	%	18.3	18.9	17.8	16.6	20.5	19.9	22.3	20.8	21.7	21.2	19.4	19.9
交通安全に関する活動 (子どもの登下校時の安全監視など)	%	14.5	14.7	14.2	14.6	19.5	23.1	19.3	18.1	18.3	16.6	17.2	17.0
保健・医療・衛生に関する活動(病院ボランティアなど)	%	15.9	16.8	15.9	14.4	16.0	16.8	16.0	15.9	16.7	17.0	15.4	16.5
募 金 活 動, チ ャ リ テ ィ ー バ ザ ー	%	15.6	15.4	16.0	12.6	13.5	15.1	16.0	22.1	17.4	15.9	15.3	15.6
人々の学習活動に関する指導, 助言, 運営協力などの活動(料理, 英語, 書道など)	%	7.7	8.6	7.3	6.2	10.6	10.4	11.9	10.9	13.1	13.5	12.2	13.9
公共施設での活動(公民館における託児, 博物館の展示説明員など)	%	8.7	10.7	10.5	9.7	8.7	14.1	12.0	11.3	12.0	11.6	10.7	11.3

(注) 平成28年2月調査までは、「社会福祉に関する活動(老人や障害者などに対する介護, 身の回りの世話, 給食, 保育など)」となっている。また, 平成30年2月調査では, 「社会福祉に関する活動(老人や障害者, 子どもに対する, 身の回りの世話, 介護, 食事の提供, 保育など)」となっている。
 出典: 内閣府「社会意識に関する世論調査(令和4年12月調査)」2023(出題の都合上, 一部を改変したところがある)

第2問 以下の文章を読み、下線部の課題に関して具体的に地域ではどのような対応・方策が考えられるかを論述せよ。(600字以内、句読点・改行含む)

我が国は、少子化による人口減少、急速な高齢化、グローバル化、第4次産業革命の進展など大きな変革の中にあり、地域社会においても、地域経済の縮小や地方財政の悪化、医療・介護の需給ひっ迫、一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題、地域の伝統行事等の担い手の減少、人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立の拡大など、様々な課題に直面している。今後、人口減少の更なる進行や人生100年時代と言われる長寿化の中で、新たな社会の姿としてSociety 5.0の実現が提唱されるなど、更に大きな社会の変化が訪れようとしている。

また、国際的な動きとして、2015年9月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標」(SDGs)が採択され、地球上の「誰一人として取り残さない(leave no one behind)」をテーマに、持続可能な世界を実現するための国際目標が定められている。目標は、誰一人として取り残さない「包摂性」や、全てのステークホルダーが役割を持つ「参画性」、社会・経済・環境に統合的に取り組む「統合性」等が特徴とされている。また、SDGsを受けて策定された日本国内の実施指針においても、優先的に進める分野の一つとして「あらゆる人々の活躍の推進」が挙げられている。

今後、より多様で複雑化する課題と向き合いながら、一人一人がより豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会づくりを進めるためには、行政のみならず企業や大学、団体、個人など様々な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組むことが必要となる。特に地域においては、行政＝サービスの提供者、住民＝サービスの享受者という二分論の役割分担によるのではなく、住民自らが担い手としてその運営に主体的に関わっていくことがこれまで以上に重要となる。

また、取り組むべき課題が多様で複雑なものとなれば、その解決のためには、専門的・学問的な視点がより重要なものとなる。知識基盤社会(knowledge-based society)においては、私的・公的両面で生起する様々な課題に対処するために、学びの力を生かすことが不可欠となる。

出典：文部科学省『人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)』2018(出題の都合上、一部を改変したところがある)